妊娠と医薬品　～将来のために～

*ドラッグレター　2017年　３月号*

妊娠中は、お腹の赤ちゃん（胎児）のために、いつもより注意しないといけないことが多くあります。その1つが、**医薬品の服用**です。医薬品の種類や飲む時期

によっては、胎児の体に**奇形**など、重大な影響を与えてしまう可能性もあるので、

男女問わず、**将来のためにしっかり覚えておきましょう。**

妊娠の**周期**は、**最終月経の始まった日**を**０週０日**として数えていき、出産の予定日は**４０週０日**です。

**妊娠周期**によって、医薬品の服用が赤ちゃんに大きく影響する時期と、そうでない時期があります。

次の月経予定日

着床

受精

最終月経の

終わり

最終月経の

始まり

妊娠6週

妊娠５週

妊娠４週

妊娠３週

妊娠２週

妊娠１週

０日

絶対過敏期

**無影響期**

妊娠２ヵ月

妊娠1ヵ月

|  |  |
| --- | --- |
| 無影響期（～妊娠3週末）絶対過敏期 | 胎児に奇形は起こらない。ただし、残留性がある医薬品では注意が必要。 |
| （妊娠4～7週末） | **重要な器官（中枢神経、心臓、消化器、四肢など）**がつくられるため、**医薬品**の影響で**奇形**が起こりやすい**最も危険な****時期！！！** |
| 相対過敏期　　　 （妊娠8～15週末） | 重要な器官の形成は終わっていますが、**口の上壁部**や**性器**はつくられている途中なので、**まだまだ注意が必要！** |
| 比較過敏期～潜在過敏期 （妊娠16～出産） | 胎児に奇形は起こらない。ただし、医薬品によっては胎児の成長や母体に影響が出る。 |

困ったことに、一番危険な**絶対過敏期（＝妊娠4週から）**は、本来**次の生理が始まるはずの週**

なのです。計画的な妊娠でなければ、**生理が遅れていると思って**妊娠していることに気付かず、うっかり

医薬品を飲んでしまうケースが多いのです!!

薬局やドラッグストアで販売されている**一般用医薬品**は、数回

飲んでも、赤ちゃんへの**奇形**の影響はほとんどないので、過剰な心配はいりませんが、**病院**で処方される**医療用医薬品**には奇形を高い確率で起こすものもあるので、赤ちゃんに影響を与えかねません。

将来、妊娠を考える時期が来たら、一度事前に産婦人科の医師や

薬剤師に医薬品の影響などについて相談するとよいでしょう。

作成・発行元